2024年秋年末闘争・組織拡大
CTG 建交労道本部闘争速報
2024年12月20日／第13号
〒060-0909 札幌市東区北9条東1丁目北海道労働センター2F
TEL011-711-7377
FAX011-711-7388
e-mail／ctg.hokkaido@gmail.com

道春闘共闘が2025年春闘学習討論集会

労働者自身が声を上げる春闘に

12月7日、札幌市で北海道春闘共闘委員会の「2025年北海道春闘学習討論集会」が開かれ、全道各地の単産・地域から約50人が集まりました。建交労から北海道本部と北海道鉄道本部から6人が参加しました。

三上代表委員（道労連議長）は「賃金が企業、規模、産業によって3倍の格差がつけられて、言わずもがなだが正規と非正規にも格差がもうけられ労働者が分断させられている。我々の春闘は、こうした矛盾や格差に満ちた状況をしっかりと職場に伝えて怒りをわき起こすことであり、職場でどういうことに困っているのか、そのことに耳を傾けて一緒にたたかおう。〈あなたの力が必要なんだ〉と呼びかけて、格差のもとに置かれている労働者自身が声を上げる春闘にしていこう」とあいさつしました。

このあと、「地域の子どもたちのためのストライキ」と題して、全労連事務局次長・国際局長の布施恵輔さんを講師に「ＬＡ教員ストに学ぶ～組合員、保護者、地域の組織化」について学びました。また、2025年春闘方針を道労連の出口憲次副議長が提案したあと、職場・地域・産別にわかれてグループワークがおこなわれました。

職場グループでは「いま職場で感じている問題・課題」「どうすれば解決できるか」、地域労連グループでは「地域労連が大切にしていること」「つながる春闘にするために」、産別役員グループでは「方針の受け止め」「全職場訪問オルグ」などについて、それぞれ複数の小グループにわかれて討論して交流しました。全体会で各グループワークの特徴をふりかえり参加者が共有しました。討論集会終了後の懇親会でも各組織からの感想などを交流しました。

25年3月ダイヤ改正提案と線区別収支報告

12月11日に、ＪＲ北海道から2025年3月ダイヤ改正提案がおこなわれました。特急列車の停車駅を見直して札幌・函館間の走行時間を短縮することや利用しやすい時間帯での運行などが計画されています。普通列車では利用増加に対応した編成両数の増車、クラブ活動終了時刻に合わせた発車時刻の見直しなど利用者からの要望に応えた対応もとられていますが、利用の少ない列車の取りやめ（減便）が8本計画され、駅の廃止も盛り込まれています。建交労鉄道本部は、利用する沿線住民の声を大切にしたダイヤ改正になるよう強く求めました。また、今春のダイヤ改正で特急列車を全席指定化しましたが、釧路・函館方を先行実施して収益の改善につながっていると、これまでの収支報告で説明されています。旭川方は次回の改正時からの実施としながら何一つ説明がなく、確認したところ来春のダイヤ改正ではおこなわないとの回答で、「かよエール定期」利用客への指定席開放は先送りにされて改善はされないままとなります。なおダイヤ改正日は2025年3月15日と修正提案が12月13日におこなわれました。

ダイヤ改正提案の前段で、2024年度第2四半期線区別収支と利用状況について報告されました。快速エアポートの利用増加により札幌圏や新幹線を中心に多くの線区で営業損益は増加して、とくに札幌圏は前年度に続いて黒字となっています。黄色線区では、富良野方面への海外旅行者の利用が増加し観光列車の運行による集客が見えています。一方で釧網線や石北線では橋梁の修繕費や新型車両の導入による減価償却費の増加で営業費用が大きく増加しており、黄色線区の収支改善をめざす3年計画の説明時に指摘した通り、沿線の皆さんと会社が改善にむけて取り組んだ頑張りが「瞬間で消える」結果となることから、数字の示し方について更なる検討の必要性を求めて団体交渉を終えました。